

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○前年度は、校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら、スキルタイムの増設、全校統一テーマによる週末課題の取組により、「書く力」を伸ばす手立てをとることができた。今年度は児童のつけたい力を意識した授業づくりと家庭学習の習慣化に取り組む。</p> <p>○前年度は、生徒指導上で気になる児童や支援が必要な児童について、組織的な対応をすることができた。今年度も、アンケートやQI結果の活用をしながら、児童理解を進め、心の教育の充実を図る。</p> <p>○前年度はリモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進めたが、十分ではなかった。小中一貫校として、9年間の児童生徒の成長について職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組む。</p> <p>○学校運営に係る業務改善については、勤務時間の上限45時間を平均では下回ったが、定時退勤日を徹底することができず、個人差が大きかった。今年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p>
2 学校教育目標	『見賢思斉』の精神で <b>たくましく未来を切り拓く児童の育成</b> ～小中一貫教育の推進を通して～

3 本年度の重点目標	<b>① 学力向上を図る。</b> <b>② 心の教育の充実を図る。</b> <b>③地域連携や小中連携を推進する。</b>
------------	----------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目						
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シート作成に伴って設定した学年の共通実践を意識して取り組んだ教員を90%以上にする。 ○「書く力」を高めることを意識した取組を実践した教員を90%にする。	・取組状況を把握できるように、定期的に研修等で促進を図ったり、確認の時間を設定したりする。 ・週2回のスキルタイムを計画的に行い、取組内容の充実を図る。 ・自分の考えを書いたり、思考を言語化させたりすること(「キーワード」の提示など条件を入れる)を意識した授業づくりや日常活動を行う。 ・週末課題(作文)の継続。	B	・学力向上対策評価シート作成に伴って設定した学年の共通実践を意識して取り組んだと肯定的回答をしたのは、85.7%で、目標達成には至らなかった。 ・「書く力」を高めることを意識した取組を実践したと、90.4%の教員が肯定的回答を示し、目標を達成することができた。 ・さらなる具体的な取組、校内研究とのつながり、家庭とのつながりなど、来年度に向けての見直しや強化を図りたい。	
	○「自分の考えを表現し、お互いに学び合える授業づくり」の推進	○「自分の考えを表現することができた」と回答する児童を80%以上にする。 ○「自分で考えたことをお互いに伝え合うことができた」と回答する児童を80%以上にする。	・「自分の考えを表現し、お互いに学び合える授業づくり」を目指し、校内研究や日々の授業において学習課題の工夫をしたり、授業力向上に向けての手立てを講じたりする。 ・授業において①自分で考える時間②考えを表現する時間③互いに学びあう時間④再考の時間を計画的に仕組み、研究主題に沿った授業スタイルを意識する。 ・教師間の授業参観をいつでもできるようにする。		A	・「自分の考えを表現することができた」と肯定的に回答した児童が80%であった。目標値は達成したものの、1学期に実施した児童アンケートのときよりも下回る結果であった。 ・「自分で考えたことをお互いに伝え合うことができた」と肯定的回答をした児童が91%で、目標値を大きく上回った。 ・校内研究のまとめとして、教員一人一人がレポートに実践をまとめ、教師間での共有を図ることで、教師の指導力向上につなげた。若手の教師が同僚の授業を見に行けるようにメンターチームで調整を行った。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。	・人権タイムやお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心の育成を図り、学校全体に支持的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見合う交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の方と連携した○体験の実施を促す。	A	・「安心して学校生活を送っている」児童が93%と目標値を上回った。人権タイムなどを通して、思いやりの心が育まれた。 ・計画に従い全クラスでふれあい道徳を実施することができた。人権集会や人権教室をうけて、道徳の時間に各クラスで考えたり、話し合ったりする活動を設けたことは、豊かな心を育むことに役立った。 ・地域人材や保護者と連携しながら、児童の体験的な学習を進めることができた。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの認知、認知に係る組織的対応ができていると回答した教員を90%以上にする。	・日常的な見取りや情報収集により、いじめの早期発見早期対応を行う。学年主任・管理職・SC等との連携を取りながら、組織的に児童の指導・保護者対応にあたる。 ・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、中・高学年との連携も含め、全職員による対応を協議する。 ・「月の心」「いじめアンケート」等のアンケートを毎月実施することにより、潜在的ないじめに対応する。 ・10月の教育相談週間で全児童と担任が1対1で話す機会をつくる。その後も相談しやすい雰囲気作りをする。		A	・「いじめ防止や早期発見に努め、いじめの認知・認知に係る組織的対応を行っている」に関して、全98%の職員が肯定的回答だった。毎月のアンケートをもとに、その日のうちに対応することを原則とした。また、日頃から児童とのコミュニケーションを重視し、児童の悩みに直ちにできる体制をつくることができた。 ・不登校傾向の児童に対して、ケース会議を開き、連携して支援に当たることで、改善の兆しが見られる児童が増えた。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	◎「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童を80%以上にする。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・Q-Uの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に出演・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。		A	・「先生は自分のよいところをみとめてくれる」に対して、肯定的な回答をした児童は、92%で目標値を上回った。支援が必要な児童を中心に据えた学級経営や、出演・役割・承認を意識した取り組みにより、児童の自己肯定感が高まったと考えられる。 ・「将来の夢や目標を持っている」の質問に、肯定的な回答をした児童は、91%であり、学期始めと学期末に取り組んだことで、全学年が自分の成長を見つめながら学校生活を送ることができた。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童を80%以上にする。	・「早寝早起き朝ごはん週間」を年2回実施して基本的な生活習慣の定着を図る。 ・自分の健康を維持するために、各学年に応じた栄養指導を行い、食事の大切さを学ばせる。 ・年1回給食運営委員会、各学期に献立委員会を行い、保護者へ給食への理解を図る。	A	・「健康に良い食事を心がけている」と回答した児童は、93%であり、食事の大切さについて考え、実行している児童が増えた。 ・全校学校給食週間に合わせて、給食の歴史やクイズなどを校内に掲示することで、食への関心を持つ児童が増えた。 ・学級担任と連携を取り、食習慣や栄養などに関する授業に今後取り組んでいきたい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・「例年通り」を見直し、各部組織や個人で業務削減につながる取組を1つは実践する。 ・データの共有化と整理整頓の徹底を図る。 ・業務記録データを活用しながら、各自が在校時間を把握し、放課後の時間を効率よく使えるように意識を高める。		B	・来年度へ向けて校時表の変更や行事の時期の見直し等を行い、業務時間確保のための取組が実現した。 ・「在校時間を意識し、効率的な作業に努めている」と回答した職員は73%であった。時間外業務の平均時間は年度初めの繁忙期に比べると十数時間減少している。在校時間が長い職員が固定化しているため、業務量の平準化を意識したい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
◎郷土学習「思斉学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実	○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「地域を活用し、思斉学に取り組んだ」と回答する教員を80%以上にする。	・総合的な学習の時間やその他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動に取り組む。 ・9月に小中合同の地域清掃活動、3学期に「ようこそ先輩」の授業を計画し、実施する。	A	・地域の方を招いて話を聞いたり、町探検で地域の様々な場所に出向いたりすることで、地域人材を活用した学習に取り組むことができた。ある特定の学年だけでなく、複数の学年で地域人材を活用することができた。郷土に愛着をもっている児童も9割近くいた。 ・6年生が中学期へ向かい授業や部活動を見学したり、中学期の先生方に絵画やミシンの扱い方などの実技指導をしてもらったりするなど、児童のためになる連携を複数回にわたり行うことができた。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができていると回答した教員を85%以上にする。	・配慮を要する児童に、必要に応じて教育支援会議を行ったり、巡回相談や専門家チームの派遣を利用したりして、よりよい支援を行う。また、個別の指導計画の作成を100%とし、支援に生かす。 ・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。		A

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・昨年度A評価であった学力向上について十分な目標達成ができなかった。校内研修や学力向上シートと連携させながら実践の重点ポイントを絞り、職員全員の共通理解・相互交流をさらに深めながら取組を進め、学力向上の成果につなげたい。</p> <p>・今年度の重点取組の1つであった小中一貫教育は、生徒指導の連携や中学年(5・6・7年生)の接続に焦点化した取組を充実させることで一定の成果をあげた。次年度は、「心の教育(教育相談)」「あいさつ等基本的な生活習慣(生徒指導)」「学力向上(校内研修)」を中心に、小中一貫教育の更なる推進を図り、児童・生徒の充実した学びや安心して登校できる支援・環境づくりにつなげたい。</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------